

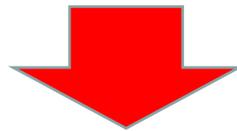
【資料2-1】

令和元年度
筑波大学教員免許状更新講習
シンポジウム
パネルディスカッション

趣旨説明資料

筑波大学教員免許状更新講習シンポジウム パネルディスカッション

- ① 筑波大学の更新講習の特色
- ② 本年度の更新講習の実績と評価結果



- ③ パネルディスカッションの趣旨の確認

① 筑波大学の更新講習の特色

特色1

総合大学の特色を活かした豊富な講習の開講

特色2

講習を5つに区分した筑波カリキュラムの実施

特色3

筑波キャンパスと東京地区での開催

特色4

障害等のある受講者への配慮

特色1:豊富な講習の開設

令和元年度 127講習
(当初定員 6,638名)

- 必修講習 … 4講習
(当初定員1,000名)
- 選択必修講習 … 24講習
(当初定員1,190名)
- 選択講習 … 99講習 (B31, C52, D16)
(当初定員4,448名)

特色2: 筑波カリキュラム

- 必修A 教育の最新事情(共通)
- 選択必修a 教育の最新事情(現代の教育課題等)
- 選択B 教科・領域の指導力を磨く 教科指導や生徒指導等に役立つ課題

↑
指導法・指導の背景となる専門的知見、指導の方法・技術

- 選択C 教師力(総合力・応用力)の向上
文化、歴史、科学、芸術、体育、医学など幅広い内容

↑
講師陣は全学から選出して講習を実施(各分野の最先端の情報)

- 選択D 附属学校実践演習

↑
附属学校の教育現場を活用し、最新の教育方法を実践的に学ぶ

特色3：筑波キャンパスと東京地区

○ 筑波キャンパス (茨城県自然博物館, 園芸植物育種研究所を含む)

- 6月, 7月, 8月に実施 71講習
- 必修A: 3講習 , 選択必修a: 15講習
選択B: 17講習 , 選択C: 36講習
- 延べ受講者数 : 2,753名 昨年3,463名

○ 東京地区 (文京校舎, 各附属学校, 東京臨海広域防災公園を含む)

- 6~12月に実施 53講習
- 必修A: 1講習 , 選択必修a: 8講習,
選択B: 14講習 , 選択C: 14講習
選択D: 16講習
- 延べ受講者数 : 1,738名

附属学校の活用

○ 筑波大学の附属学校は11校

- ・附属小学校,
- ・附属視覚特別支援学校
- ・附属中学校,
- ・附属聴覚特別支援学校
- ・附属高等学校,
- ・附属大塚特別支援学校
- ・附属駒場中学校,
- ・附属桐が丘特別支援学校
- ・附属駒場高等学校,
- ・附属久里浜特別支援学校
- ・附属坂戸高等学校

○ 選択D・・・各校で附属学校実践演習を実施

○ 選択B, C・・・附属視覚特別支援学校, 附属駒場中・高等学校で実施

特色4：障害等のある受講者への配慮

○ 視覚障害の場合

- 講習関係資料データの事前送付
- ティーチングアシスタント等の配置
- 認定試験の特別措置

(点訳問題, 時間延長, 別室受験 など)

○ 聴覚障害の場合

- 要約筆記者, 手話通訳者等の配置
- 認定試験の特別措置

(口頭での注意事項を文書で伝える など)

○ その他 (妊娠や病気等で不安のある方)

- 休憩室や体調に合わせての指定席の確保

② 本年度の更新講習の実績

令和元年度【資料2-2】を参照

○ 講習数 : 124講習 (昨年度より8講習減)

※ 3講習不開講

- 必修A (4講習) <筑波 3, 東京 1>
- 選択必修a(23講習) <筑波15, 東京 8>
- 選択B (31講習) <筑波17, 東京14>
- 選択C (50講習) <筑波36, 東京14>
- 選択D (16講習) <東京16>

○ 受講者数 : 4,491名 (昨年5,687名)

- 受講決定者(4,515名) ・ 当日欠席者(24名)

※当初定員(6,638名)の約68%

令和元年度教員免許状更新講習受講者 居住地別申込み状況(実人員)



()内の数字は昨年度との比較

									北海道 1 (+1)			
									青森 2 0			
									秋田 0 (-1)	岩手 0		
									山形 2 0	宮城 3 (-3)		
									新潟 3 (+1)		福島 7 (-1)	
						福井 0 0	石川 0 (-5)	富山 1 0				
			山口 0 0	島根 0 0	鳥取 0 (-1)	兵庫 0 (-5)	京都 13 (+7)	滋賀 0 0	長野 3 (+1)	群馬 6 (-2)	栃木 31 (-11)	茨城 565 (-220)
			広島 3 (+2)		岡山 2 (+2)	大阪 8 (+7)		奈良 2 (-1)	岐阜 0 (-1)		山梨 5 0	埼玉 118 (-18)
									静岡 6 (+1)		東京 405 (-13)	千葉 157 (-22)
			愛媛 0 0		香川 0 0				三重 1 (+1)		神奈川 92 (-24)	
			高知 1 0		徳島 1 0		和歌山 1 (+1)					
長崎 0 (-1)			佐賀 0 0	福岡 3 (+3)								
			熊本 2 (+1)	大分 0 0								
沖縄 1 (-1)			鹿児島 0 0	宮崎 3 (+3)								

開設者	筑波大学	受講期間	令和元年7月27日		
講習名	教育の最新事情 <4クラス>				
受講者の学校種	幼・小・中・高・中等教育・特別支援・その他 (該当する箇所に○を付けてください)	職名		担当教科等	

②以下のⅠ・Ⅱ・Ⅲの項目のあなたの評価について、評価基準の4~1の該当する番号に○印をつけてください。
評価の基準は以下のとおりとします。

- 4：よい(十分満足した・十分成果を得られた)
3：だいたいよい(満足した・成果を得られた)
2：あまり十分でない(あまり満足しなかった・あまり成果を得られなかった)
1：不十分(満足しなかった・成果を得られなかった)

③本評価は今後の免許状更新講習の改善と更新講習に関する情報提供のために行われるものであり、あなたの履修認定に係る評価には一切影響を与えません。

Ⅰ. 本講習の内容・方法についての(下記の5つの視点を踏まえた)総合的な評価	4	3	2	1
<ul style="list-style-type: none"> 学校現場が直面する諸状況や教員の課題意識を反映して行われていた。 講習のねらいや到達目標が明確であり、講習内容はそれらに即したものであった。 受講生の学習意欲がわくような工夫をしていた。 適切な要約やポイントの指摘等がなされ、説明が分かりやすかった。 配付資料等使用した教材は適切であった。 				
Ⅱ. 本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の修得の成果についての(下記の4つの視点を踏まえた)総合的な評価	4	3	2	1
<ul style="list-style-type: none"> 教職生活を振り返るとともに、教職への意欲の再喚起、新たな気持ちでの取り組みへの契機となった。 教育を巡る様々な状況、幅広い視野、全国的な動向等を修得することができた。 各教育活動に係る学問分野の最新の研究動向、これまでの研修等では得られなかった理論・考え方・指導法や技術等を学ぶことができ、今後の教職生活の中での活用や自らの研修での継続した学習が見込まれる。 受講前よりも講習内容への興味が深まり、教員としての知識技能の厚みや多様さを増す一助となった。 				
Ⅲ. 本講習の運営面(受講者数、会場、連絡等)についての評価	4	3	2	1

③以下の項目は、筑波大学の今後の教員免許状更新講習に役立てるためのものです。それぞれの項目の評価について、上記の評価基準の4~1の該当する番号に○印をつけてください。

1. 内容が自分のニーズに合っていた。	4	3	2	1
2. 自分のこれからの実践に生かせる内容であった。	4	3	2	1
3. 講師の説明が分かりやすかった。	4	3	2	1
4. 本講習の形式(講義・演習など)が適切であった。	4	3	2	1
5. 本講習の受講者数が適切であった。	4	3	2	1
6. 教室の広さや設備等の環境が適切であった。	4	3	2	1
7. 申し込みから終了までのスタッフの対応が適切であった。	4	3	2	1

④本講習を受講してのご意見・ご感想等、お気付きの点がございましたら自由にお書きください。

②本年度の更新講習の評価結果

文科省による評価項目

本学独自の評価項目

② 本年度の更新講習の評価結果

○ 受講者評価書（事後アンケート）

☆ 文科省指定項目（3項目）

基準 4:よい, 3:だいたいよい
2:あまり十分でない, 1:不十分

I 本講習の内容・方法についての総合的な評価

II 本講習を受講したあなたの最新の知識・
技能の修得の成果についての総合的な評価

III 本講習の運営面（受講者数, 会場, 連絡等）
についての評価

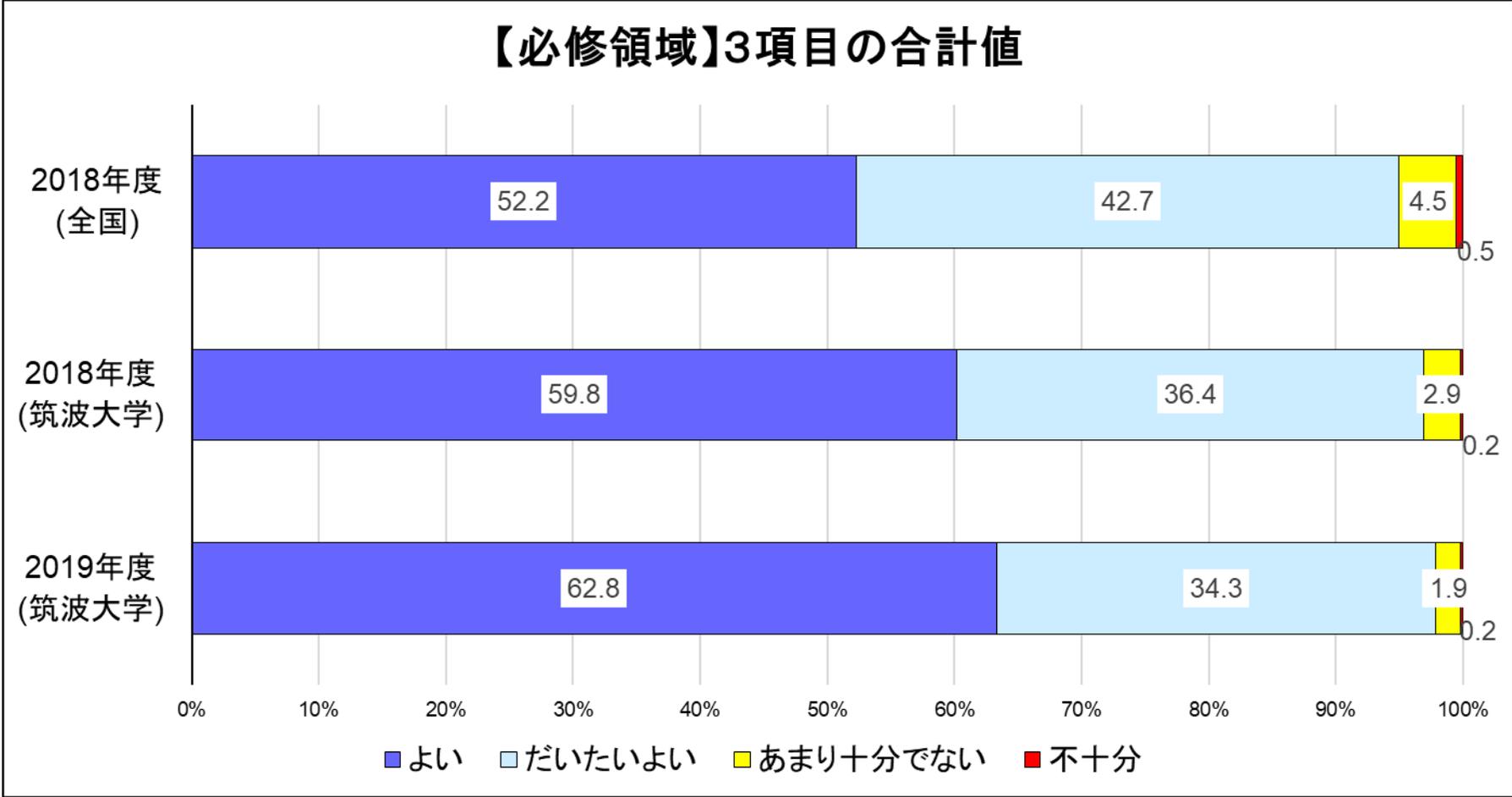
② 本年度の更新講習の評価結果

☆ 本学独自の評価項目（7項目）

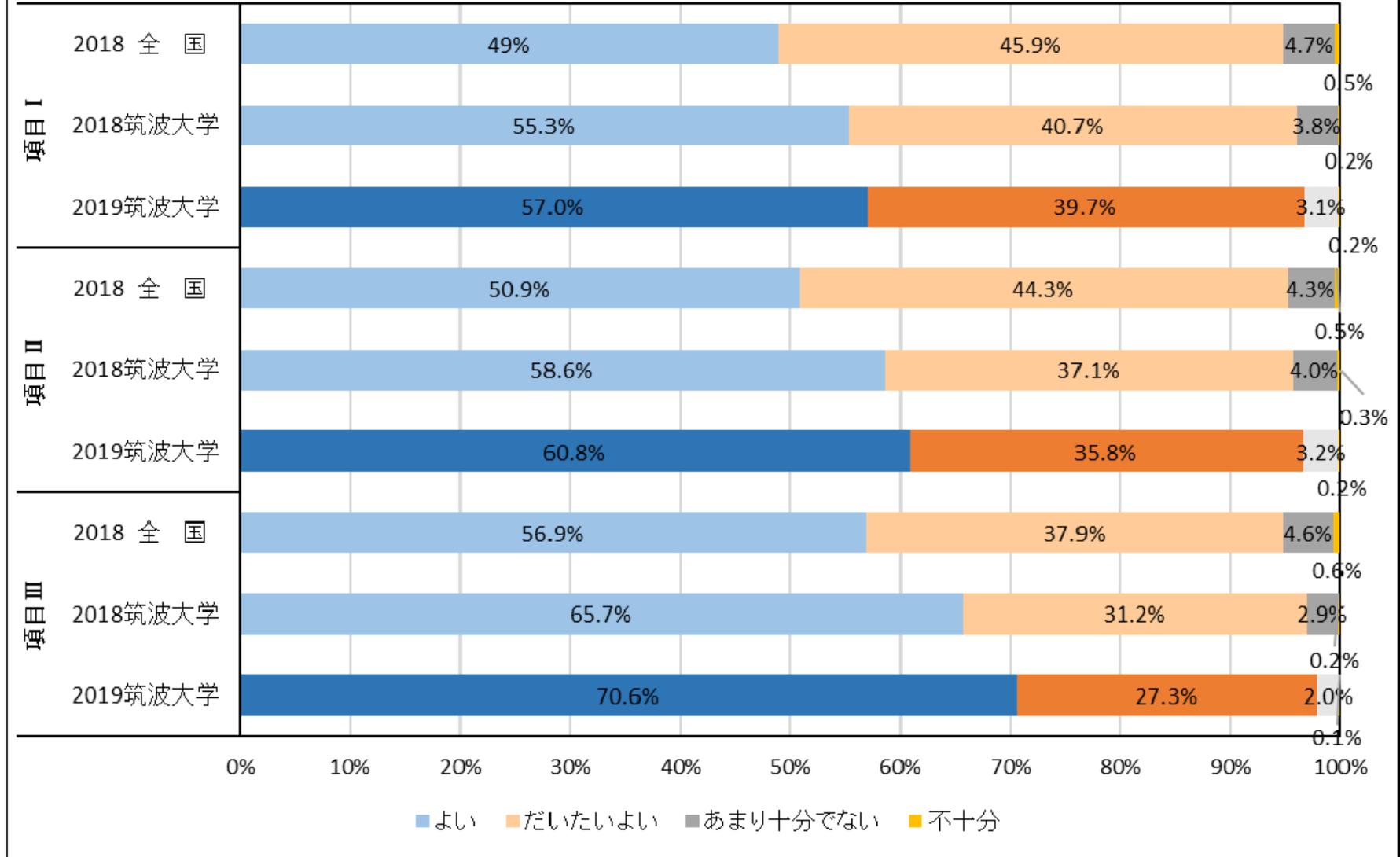
基準 4:よい , 3:だいたいよい
2:あまり十分でない, 1:不十分

- ① 内容が自分のニーズに合っていた。
- ② 自分のこれからの実践に生かせる内容であった。
- ③ 講師の説明が分かりやすかった。
- ④ 本講習の形式（講義・演習など）が適切であった。
- ⑤ 本講習の受講者数が適切であった。
- ⑥ 教室の広さや設備等の環境が適切であった。
- ⑦ 申し込みから終了までのスタッフの対応が適切であった。

文科省指定項目による評価結果



必修領域 項目別比較



必修A: 昨年度評価平均との比較

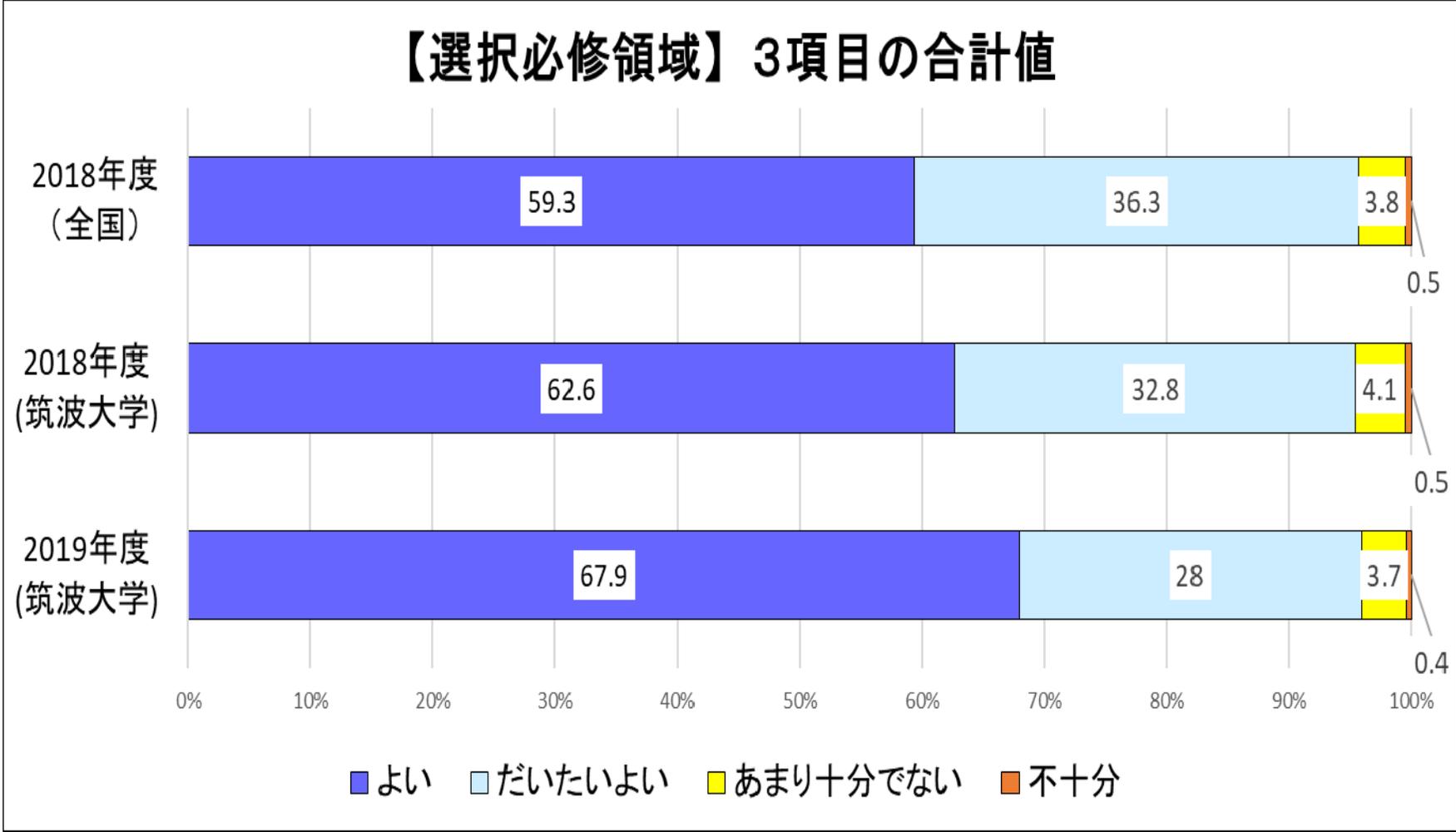
・評価項目 I ~ III
: 文部科学省指定項目

・評価項目①~⑦
: 本学独自の項目

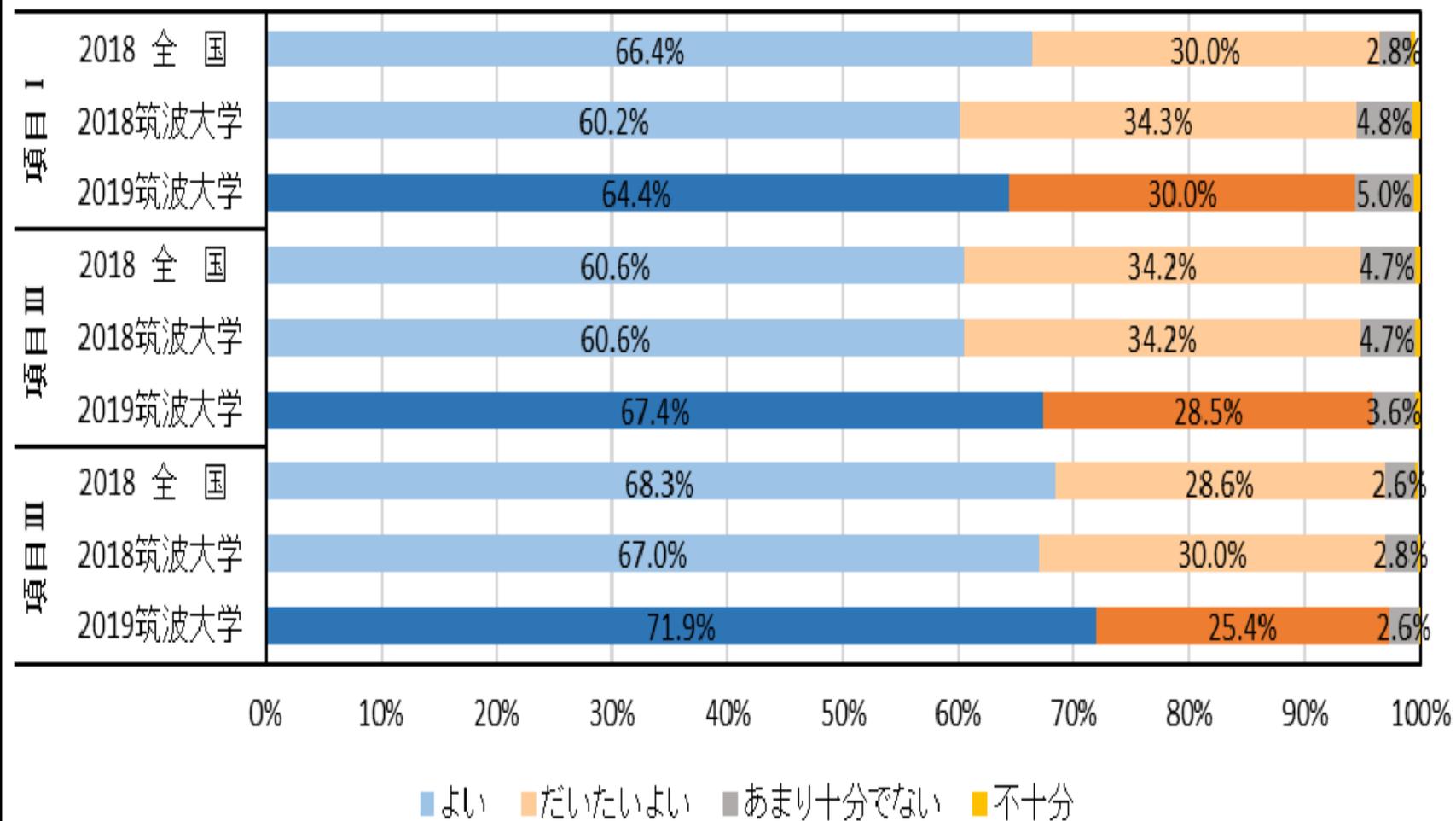
必修A 昨年度平均	87.5	87.5	90	85	87.5	87.5	87.5	90	90	90
評価項目	I 内容	II 習得	III 運営	① ニーズ	② 実践	③ 講師	④ 形式	⑤ 人数	⑥ 環境	⑦ 運営
必修A 今年度平均	87.5	90	92.5	85	85	87.5	87.5	90	90	92.5

4段階評価を100点に換算

文科省指定項目による評価結果



選択必修領域 項目別比較



選択必修a: 昨年度評価平均との比較

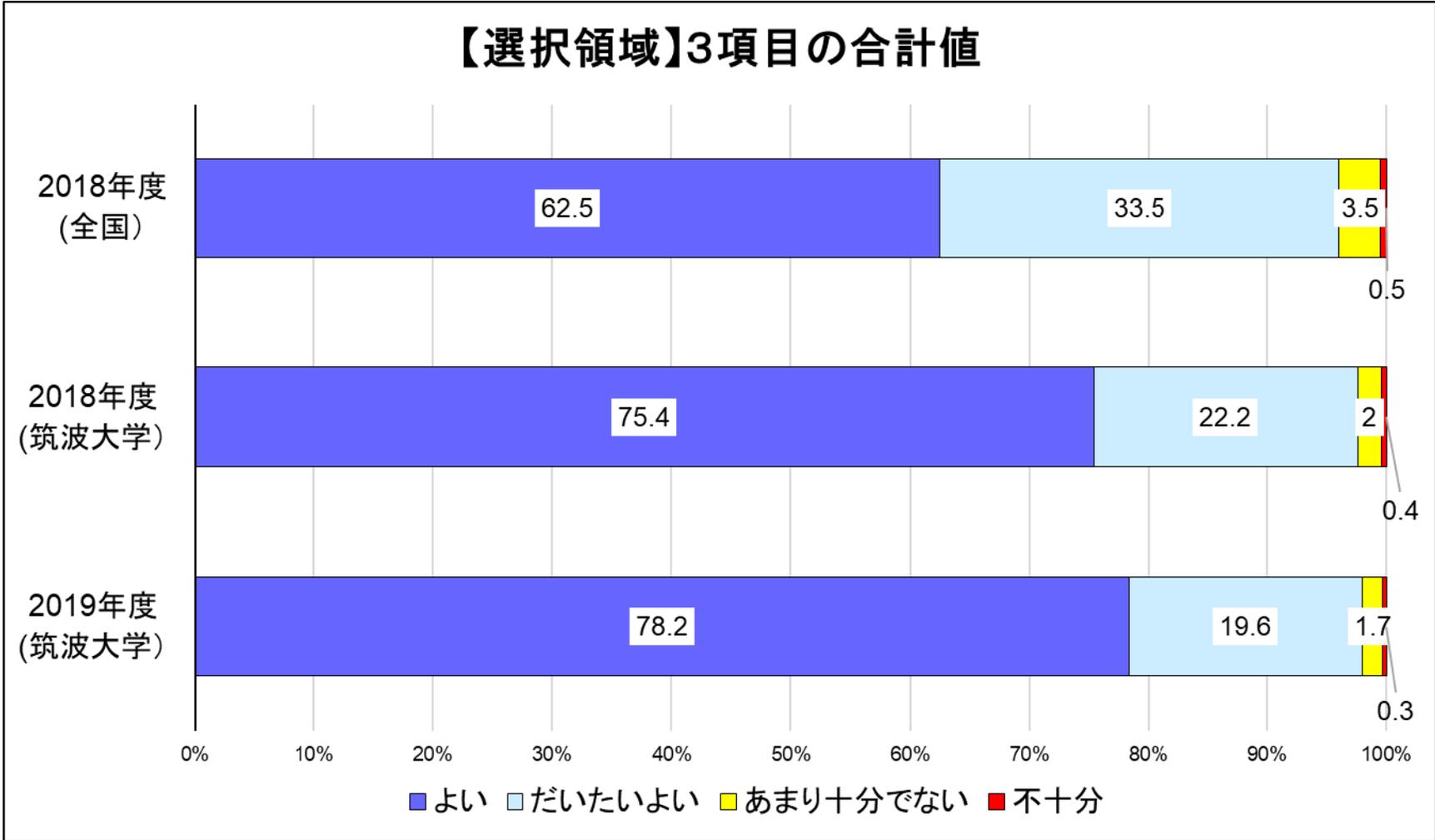
・評価項目 I ~ III
: 文部科学省指定項目

・評価項目①~⑦
: 本学独自の項目

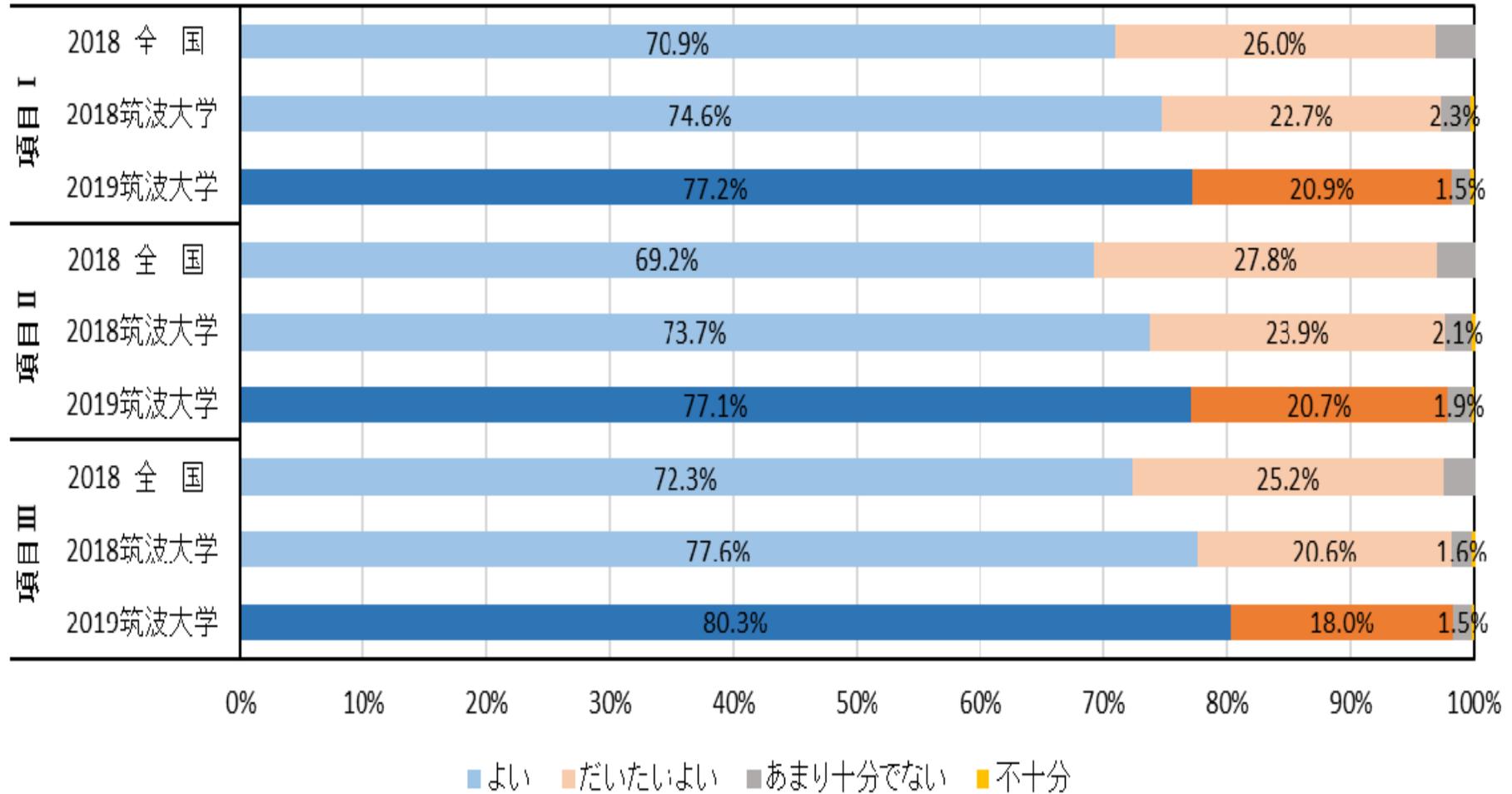
選択必修a 昨年度平均	87.5	87.5	90.0	85.0	87.5	87.5	90.0	92.5	90.0	92.5
評価項目	I 内容	II 習得	III 運営	① ニーズ	② 実践	③ 講師	④ 形式	⑤ 人数	⑥ 環境	⑦ 運営
選択必修a 今年度平均	90.0	90.0	92.5	87.5	87.5	90.0	90.0	95.0	90.0	92.5

4段階評価を100点に換算

文科省指定項目による評価結果



選択領域 項目別比較



選択B・C・D:昨年度評価平均との比較

・評価項目 I ~ III

: 文部科学省指定項目

・評価項目①~⑦

: 本学独自の項目

B	選択B 昨年度平均	87.5	87.5	90.0	85.0	87.5	87.5	90.0	92.5	90.0	92.5
	評価項目	I 内容	II 習得	III 運営	① ニーズ	② 実践	③ 講師	④ 形式	⑤ 人数	⑥ 環境	⑦ 運営
	選択B 今年度平均	90.0	90.0	92.5	87.5	87.5	90.0	90.0	95.0	90.0	92.5

4段階評価を100点に換算

C	選択C 昨年度平均	87.5	87.5	90.0	85.0	87.5	87.5	90.0	92.5	90.0	92.5
	評価項目	I 内容	II 習得	III 運営	① ニーズ	② 実践	③ 講師	④ 形式	⑤ 人数	⑥ 環境	⑦ 運営
	選択C 今年度平均	90.0	90.0	92.5	87.5	87.5	90.0	90.0	95.0	90.0	92.5

D	選択D 昨年度平均	87.5	87.5	90.0	85.0	87.5	87.5	90.0	92.5	90.0	92.5
	評価項目	I 内容	II 習得	III 運営	① ニーズ	② 実践	③ 講師	④ 形式	⑤ 人数	⑥ 環境	⑦ 運営
	選択D 今年度平均	90.0	90.0	92.5	87.5	87.5	90.0	90.0	95.0	90.0	92.5

教員免許更新講習の形式

- 対面型
認定を受けた大学等で受講
- 通信型
放送大学
e-ラーニング

対面型と通信型の比較

	対面型	通信型
選択理由	<ul style="list-style-type: none"> ・筑波大学が近くにある。 ・講師から直接受講できる。 ・受講日が設定されていれば、受講を自分も家族も理解できて協力を得やすい。 ・他校種の先生との交流がある。 ・授業参観ができる。(筑波大附属学校) 	<ul style="list-style-type: none"> ・10年前に筑波大学で受講したが、言葉が難しく、1日に6時間集中する学習が厳しかったから。 ・3~4のチャートで講習が構成されて、1コマが20~30分と短く、繰り返し受講できる。 ・学校の予定等に関わらず自分の設定した時間で受講できる。 ・育児中の時は、通信型が便利。
受講後の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の専門だけでなく、他の教科との連携を学ぶ機会となった。 ・自分の興味・関心がある講習数が多くあった。 ・自分の専門外の講習を受けたが、意外と面白く視野が広がった。 ・他校や他校種の教員と交流できた。 ・授業参観は勉強になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手軽に受講できた。(カメラ付きPCがあれば可能) ・学校の行事に左右されずに、講習を選択できた。 ・短時間で1つのチャートを受講できるが、計画的に長期休業中に受講しないと、後半にしわ寄せがくる。 ・反復学習の時間は思ったよりつくれなかった。
	・1講座 6000円 + α	・1講座 6600円~

受講する講習については？

茨城県の教員の資質向上の指標を基にすると

- **30代**: 教職・教科専門性の向上

例: カリキュラムをバランスよく、特に授業参観

- **40代**: 校務分掌等の企画調整及び若手教員への指導・助言

例: 法規、カリキュラムマネジメントの理解

- **50代**: 学校運営及び若手・中堅教員への指導・助言

例: 専門、特別支援教育、専門以外教科の学び

令和元年度受講者履修パターン

受講時間	実人数	受講パターン									
6時間	361人	A	a	B	C	D					
		37	53	77	124	70					
12時間	270人	Aa	AB	AC	AD	aB	aC	aD	BB	BC	
		51	22	17	0	18	28	4	11	41	
		BD	CC	CD	DD						
		20	34	15	9						
18時間	177人	AaB	AaC	AaD	ABB	ABC	ABD	ACC	ACD	aBB	
		23	28	4	4	4	6	12	1	4	
		aBC	aBD	aCC	aCD	aDD	BBB	BBC	BBD	BCC	
		8	1	7	4	1	0	7	6	14	
		BCD	BDD	CCC	CCD	CDD	DDD				
		15	0	16	5	6	1				
24時間	84人	ABBB	ABBC	ABCC	ABCD	ACCC	ADDD	AaBB	AaBC	AaBD	
		1	5	4	7	2	0	6	21	5	
		AaCC	AaCD	aBBC	aBBD	aBCC	aBCD	aBDD	aCCC	aCCD	
		16	7	0	0	3	2	0	4	1	
30時間	531人	AaBBB	AaBBC	AaBBD	AaBCC	AaBCD	AaBDD	AaCCC	AaCCD	AaCDD	AaDDD
		15	91	12	182	115	9	93	12	1	1

③ パネルディスカッションの趣旨の確認

筑波カリキュラムの充実をめざして

「受講してよかったと思って帰ってもらえる講習」
であるために <開設当初からのモットー>

<事後アンケート自由記述より>

- 対面講習の良さを感じる講習の提供
 - 質の高い講習
 - 受講者ニーズや時代に応じた講習
 - 学校現場で活かせる講習
 - 視点や人脈が広がる講習
- 手続きの分かりやすさと快適な受講環境

受講経験者

受講予定者

筑波カリキュラムの充実&周知

講習担当

運営担当

よろしくお願いします